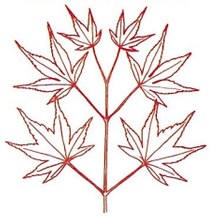
カエデあれこれ

カエデ科の特徴

枝や葉は対生



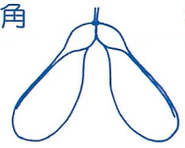
カエデ科の特徴は葉のつき方と果実の形。葉も枝も常に向き合って(対生)、平たく付いています。果実の形は３種類。種類によって角度が違います。

①水平



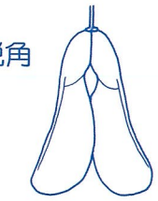
イロハモミジ
コミネカエデ
オオモミジ
など

②鈍角



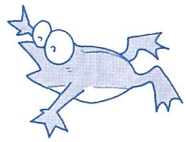
ウリハダカエデ
ホソエカエデ
ハナノキ
など

③鋭角



カラコギカエデ
カジカエデ
など

カエデとモミジは違うもの？



カエデとは「蛙手」と書き、葉の形がカエルの手に似ていることから、モミジとは「紅葉」または「黄葉」と書き、葉が美しく変わることを意味しています。

昔は木や草の紅葉をモミジと呼び、カエデの紅葉をカエデモミジ、そのほか蔦モミジ、柿モミジ、草モミジなど、それぞれ呼んでいましたが、いつしかモミジと言えばカエデのことをさすようになりました。

カエデ科の木の名前としてはイロハモミジ、オオモミジ、イタヤカエデ、カジカエデなど、モミジとついたり、カエデとついたり、いろいろです。

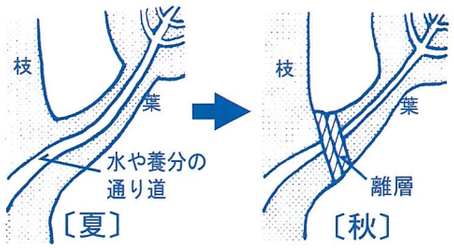
カエデの花は？



春に１０ミリ前後の花を房状に咲かせますが、あまり目立ちません。ハナノキだけは、葉が出る前に咲く赤い花が目立ち、カエデらしからぬ「花の木」の名が。自生地は愛知県周辺の湿地に限られ、天然記念物に指定されています。

葉は なぜ秋に紅葉するのか？

美しい紅葉が見られるかは、秋のお天気しだいです。日中暖かく、夜に冷え込む、そんな晴天が続くと、美しい紅葉が見られます。



＜紅葉のしくみ＞

①秋になって寒くなると、葉を落とす準備のため、木(落葉樹)は葉と枝との間に離層(仕切り)を作ります。

②日中の気温が高いと光合成が盛んに行なわれ、葉にたくさんの糖分ができます。

③夜の気温が低いと離層が急速にできて、葉にできた糖分が枝の方に運ばれず、葉の中にたまります。そして赤い色素の成分に変わっていきます。

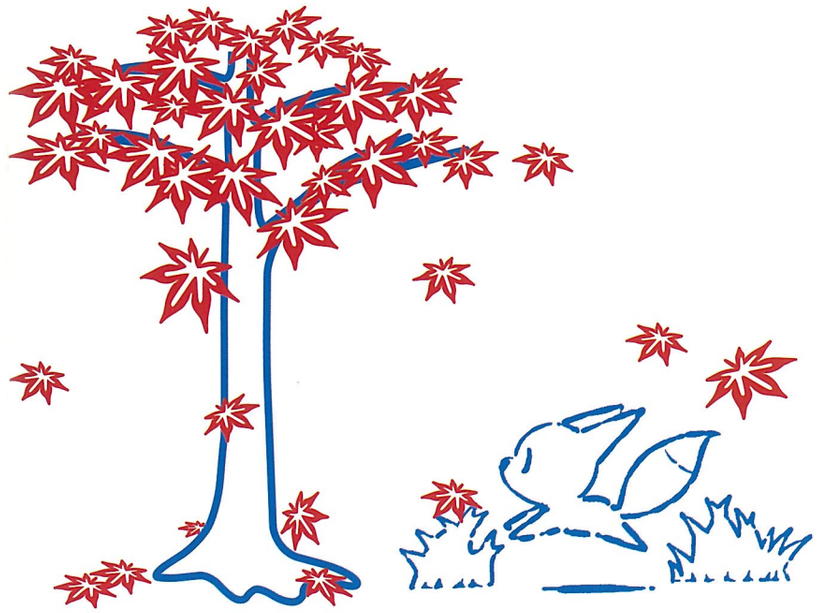
④日に日に気温が低くなると葉緑素が壊れていきます。そのため葉の緑色が消えていき、隠れていた黄色の色素やたまっていた赤い色素が見えてきます。紅葉の始まりです。

夜に霜がおりるなど、気温が低過ぎると細胞が壊れ、葉は茶色に枯れてしまいます。日中の気温が低いと光合成が活発に行われないため赤い色素が出来ず、もとからある黄色の色素が目立ち、黄葉ということになります。

また、木の種類によって葉に含まれる色素の量や成分が異なり、それにより葉の色の変わり方もさまざまです。

日本のカエデ
箱根のカエデ

カエデウォッチングラリー

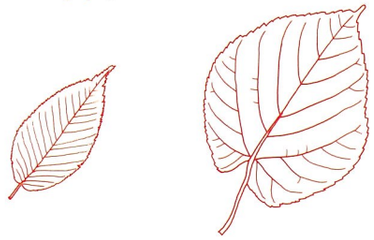


箱根町立
箱根湿生花園

いろいろなカエデ

この秋、カエデの種類を覚えましょう。カエデは葉の形に特徴があるので、かなり覚えやすい樹木です。
北半球を中心に約２００種のカエデがあり、日本には３０種類ほどあります。
この内、園内には２４種、箱根では１６種が見られます。
（◎箱根にあるカエデ　● 箱根湿生花園にあるカエデ）

丸い葉



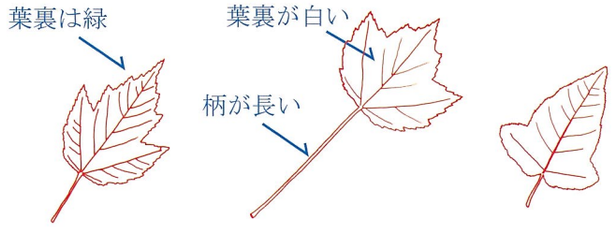
◎●チドリノキ　●ヒトツバカエデ

三つ葉



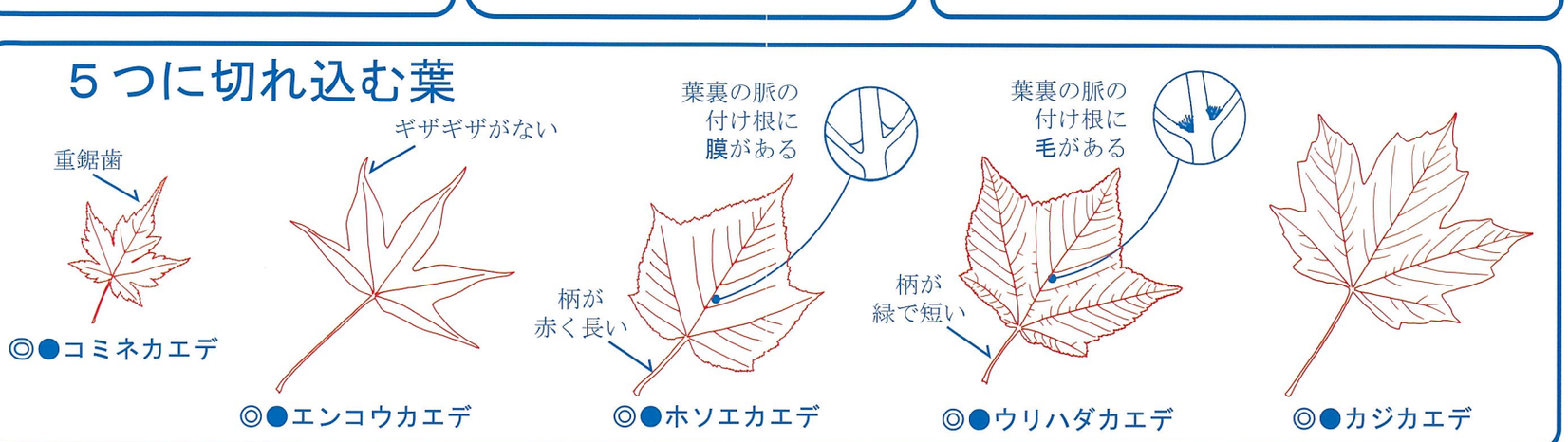
◎●ミツデカエデ　●メグスリノキ

３つに切れ込む葉



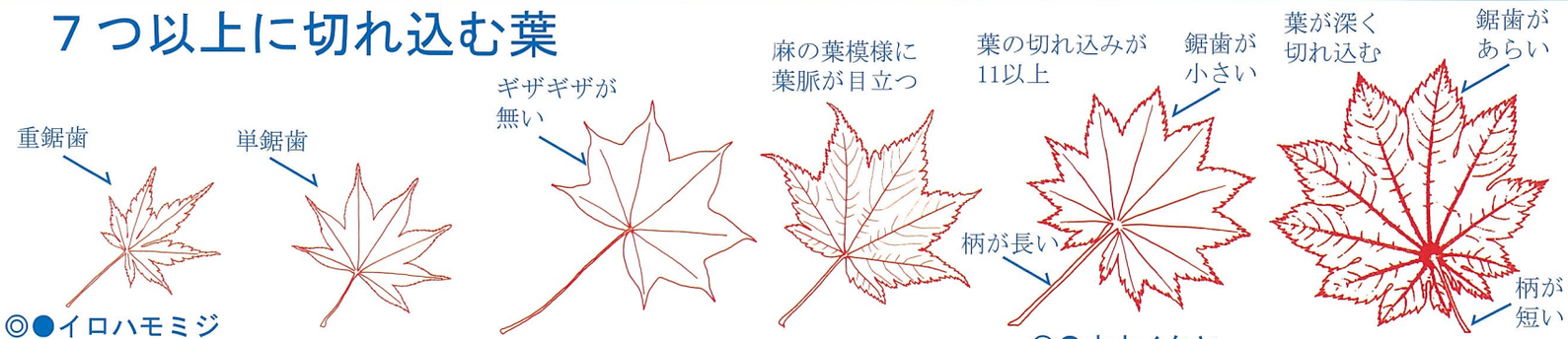
●カラコギカエデ　●ハナノキ　◎●ウリカエデ

５つに切れ込む葉



◎●コミネカエデ　◎●エンコウカエデ　◎●ホソエカエデ　◎●ウリハダカエデ　◎●カジカエデ

７つ以上に切れ込む葉



◎●イロハモミジ　◎●オオモミジ　●イトマキイタヤ　◎●アサノハカエデ　◎●オオイタヤメイゲツ　●ハウチワカエデ

重鋸歯（大きなギザギザの中に小さなギザギザがある）　**単鋸歯**（ギザギザが一回）

0　5cm

カエデウォッチングラリー

園内のカエデに番号がついています。
何のカエデか、種類を当ててみませんか？



カエデ観察コース
（一周約300m）

① ＿＿＿＿＿＿
② ＿＿＿＿＿＿
③ ＿＿＿＿＿＿
④ ＿＿＿＿＿＿
⑤ ＿＿＿＿＿＿
⑥ ＿＿＿＿＿＿
⑦ ＿＿＿＿＿＿
⑧ ＿＿＿＿＿＿
⑨ ＿＿＿＿＿＿
⑩ ＿＿＿＿＿＿
⑪ ＿＿＿＿＿＿
⑫ ＿＿＿＿＿＿

答えは、終点のところにあります。